

3. 食を通じたまちおこしに向けて ～ウェルシーフード構想～

3-1 ウェルシーフード構想

地域全体で“食”を通じた農・水産・畜産・加工・小売・飲食業等の関係者や消費者が連携し、まちそのものを元気にしていくために、目指すべき方向性を示した構想がウェルシーフード構想である。(図 3-1 参照)

現在、本市では「ウェルシーランド(豊穰な土地)構想」と名付けられた住みやすいまちづくりを推進するための取組みを展開している。「食を通じたまちおこし」も、本市の豊穰な食資源を存分に生かすという意味を込めて、「ウェルシーフード構想」と名付けた。

「ウェルシーフード構想」のいくつかの柱としては、次に掲げる施設群の整備や仕組みづくりが想定される。

施設群の整備

大規模ハウス団地、直売所、加工所、レストラン等構想の実現に必要な施設群の整備。

ウェルシーメニューの開発

多様な地元食資源を利用した特徴あるメニューを開発し、市内の飲食店で提供する仕組み。素材である食資源は直売所等で購入可能とする。直売所等を通じて届く消費者の声は、生産者自身の商品づくりも改善する。

認定制度

料理は高品質で安心、安全が不可欠であるため、質の保証をするための仕組み。

加工品の生産と販路拡大

市内で加工度を高めることに注力し、市内の食資源を組み合わせる加工所で加工品を生産し、全国販売をも視野に入れた仕組み。

オーナー制度、体験観光

農・水産・畜産業の各生産者が、オーナー制度や体験観光とも連携し、地域外との交流を深めるとともに、生產品の付加価値を高め、消費者へ提供する仕組み。

食育の推進

食育の活動を通じ市民を巻き込む仕組み。このことにより「食を通じたまちおこし」は市全体で取組む活動となり、食のまちとしての伊達市の新たなイメージ、新たなブランドが生まれることとなる。

本構想は、特定産品による商品づくりばかりではなく、第一次産業に関わる多くの関係者の現在の特徴を生かし、連携することで、持続可能で豊かな食のまちを創出することあり、本市の認知度を高め、市そのものの価値を高めていくことを目的とする。

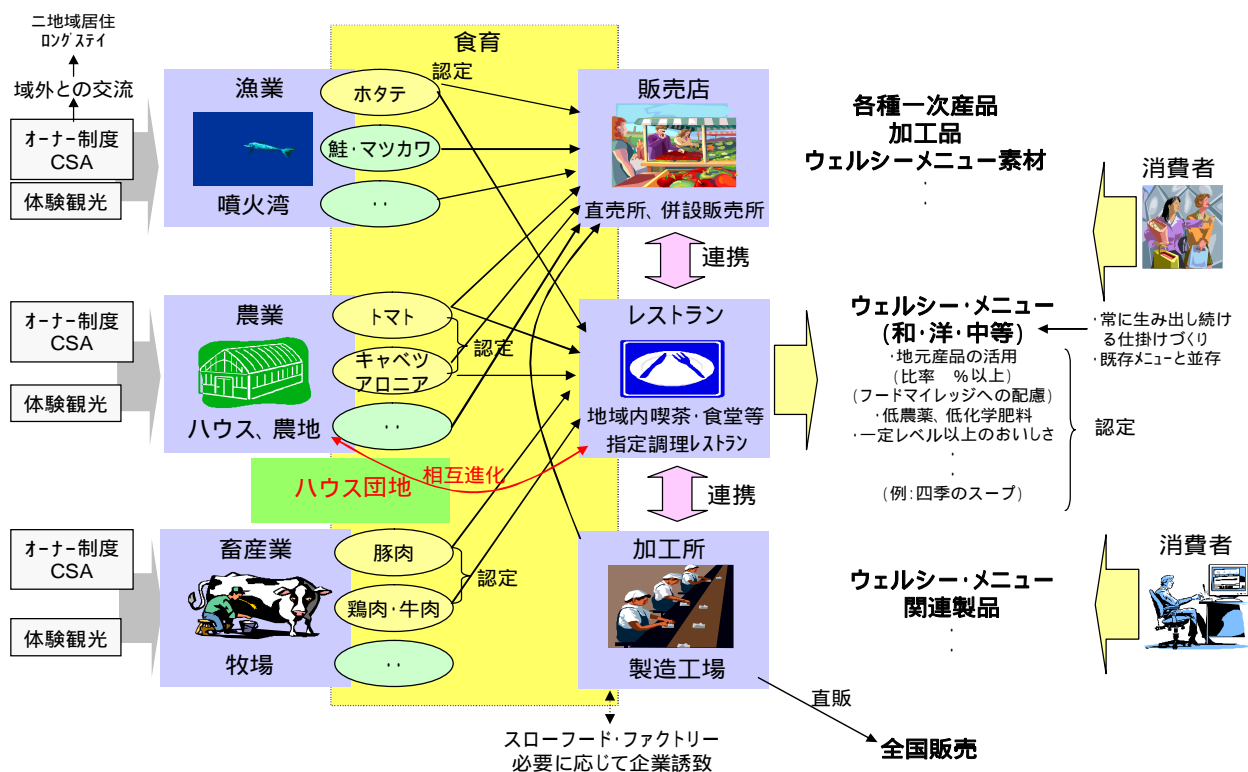


図 3-1 ウェルシーフード構想のイメージ

本構想の実現のためには、構想に示した考え方や方策を詳細に検討し、基本計画及び実施計画を策定する必要がある。

地域再生、地域活性化に向けた活動が全国的に活発化する中、「食を通じたまちおこし」に取り組む自治体は多い。そうした中で本市の活動を実り多いものとするためには、自治体間競争も視野に入れ、迅速な取組みが重要である。

3-2 活動スケジュール

迅速な取組みが重要である一方、関係者の合意形成のもと、連携・協力体制を構築することも重要となる。今後、本構想をもとに関係者参加型の基本計画とすることで、関係者の関心の高まりや基本計画の実現可能性を高めることが期待される。

今後は概ね次のとおり活動展開する予定である。

平成 20 年度 基本計画の策定

- ・ 具体的な個別事業及び推進体制の検討・整理
- ・ 行動計画の作成及び関連活動の検討

平成 21 年度 実施計画の策定

- ・ 実行組織の結成
- ・ 各施設の実施設計

平成 22 年度 実施計画にもとづく事業着手